

コラム 人生課長の独り言～一歩進めるためのヒント～

「主体的に（すすんで）取り組む子」はどんな子？

学校において「主体的に取り組む子」「すすんで取り組む子」とは、どんな子どもの姿をイメージされるでしょうか？

「自分の意見を持ち、積極的に手を挙げて発表する姿」「難しい課題にも果敢に挑戦する姿」などを思い浮かべられる方も多いのではないでしょうか。確かに、そういう姿を「理想」として持つことは間違いでありませんし、そのような授業を日々目指す教師の熱意も重要です。

しかし「主体的」な姿って、本当にそれだけでしょうか？人前で発言することが苦手で、手を挙げることに躊躇している子は「主体的」ではないのでしょうか？例えば、グループでの話し合いの場面では、我々、大人は全員が活発に意見を交わす様子を期待しますが、発表はできなくても、友達の意見を一生懸命に聞いている子やメモを取っている子は該当しないのでしょうか？



『主体的な姿』の共有例

決してそうではありませんね。他人と比べてどうかではなく、その子なりの「主体的」な姿であれば良いのです。目標なのですから、途上であっても良いはずで、到達しなければならないゴールではないとも思うのです。教師の側が上で述べたような姿を強く持ちすぎる（目標ではなくゴールにしてしまう）と、そこに到達した姿を見せる子どもしか見えなく（讃めなく）なったり、子ども側も（先生の理想と比べると）‘自分はまだまだだなあ’と肯定感が下がってしまったりしてしまうかもしれません。

「主体的」という言葉が難しければ「一生懸命、頑張るってどどんなこと？」と子ども達に問い合わせ、多様な「主体的（すすんで）に取り組む姿」を出し合い、教師と子どもそれぞれがイメージを持ち、共有することが大切なかもしれませんね。（高橋）



Vol.18

発行日 令和7年12月

岡山県教育庁 人権教育・生徒指導課

生徒指導 Leaflet @ OKAYAMA リーフ

誰一人取り残さない岡山県の教育に向けて

なぜ、 主体的でなければ ならない？

多くの学校で「すすんで学ぶ子」、「主体的に取り組む生徒」の育成を学校教育目標や目指す児童生徒像に掲げて取り組んでおられますことと思います。こういう児童生徒像は、昔から目指していたようにも思うのですが、学習指導要領で「主体的、対話的で、深い学び」が目指されるようになってから、より増えたように感じるのは私だけでしょうか？

学習指導の観点から語られることが多い「主体的な〇〇」を、生徒指導の立場で考えてみます。

岡山県教育庁
人権教育・生徒指導課

〒700-8570
岡山県岡山市北区内山下2-4-6
Tel:086-226-7589 Fax:086-224-2134

Q. これからの中学生達に育むべき力には、どのようなものがありますか？

A.これまでの教育で重視されてきた「答えの決まった問題を解く力」だけでは、変化の激しい社会を生き抜くことは困難です。そのため、子どもたちは以下のようないくつかの力を身につけることが必要だと考えられています。

○自ら課題を見つける力：

何をすべきか決まっていない状況でも、自分で問題点を見つけ出す力

○自ら解決策を考える力：

膨大な情報の中から、最善の解決策や糸口を探し出す力

○自ら行動する力：

自分で考え、判断し、結果に責任を持って行動できる力

これらの力を育むために、「主体性」が教育現場で重視されるようになりました。『学習指導要領』でも、「主体的・対話的で深い学び」が提唱されています。

「主体性」とは、自ら考え判断したり、自ら責任を持って行動する態度や様子であると言えます。

決して目新しい言葉ではありませんが、急速な社会の変化に対応するために国内外の教育制度や政策が変化するなかで、あらためてその重要性がクローズアップされていると言えるでしょう。

たとえば、私たちを取り巻く「自然環境の破壊」や「国際情勢の不安定化」が進行しています。また、人生100年時代といわれるなか、学校で学んだ知識が、その後も一生通用するとは限りません。さらには、AIの登場でこれまでの職業がなくなる可能性も指摘されています。

このようなめまぐるしい社会の変化や、先を見通せない社会に適応していくために、主体的に新しいことに挑戦したり、課題を解決するために仲間とともに取り組んだりすることが求められています。とりわけ、これから数年後に社会に出る子ども達は、社会の変化がさらに大きくなるなかで、今の大それより一層、状況に応じて臨機応変に自分の人生やキャリアを主体的に切り拓く力が求められるのです。

社会變化に伴い、
必要とされる力も
変わっている



『提要』のダウンロード
はコチラ

生徒指導の立場では…

平成28年の熊本地震の際、Twitter（現X）に「地震で動物園の檻が壊れ、市内にライオンが放たれた」「迷彩服を着たグループが空き巣」など、100件以上の流言飛語が飛び交い、投稿者が偽計業務妨害の疑いで逮捕（不起訴処分）されました。

そのような投稿自体許されることではありませんが、中には、その情報を信じて善意からリツイートした人もおり、情報の真偽を常に確かめることの大切さを感じた事件でした。これからの社会を生きる子ども達は、情報を「受動的」に得るのでなく、正しい情報を「主体的」に取りに行く力を身に付けなければ、加害者として事件に関与することにもなりかねないのです。

生徒指導では、児童生徒一人一人が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をするべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力、すなわち、「自己指導能力」を獲得することが目指されています。

児童生徒の自己指導能力の獲得を支える生徒指導では、多様な教育活動を通して、児童生徒が主体的に課題に挑戦してみることや多様な他者と協働して創意工夫することの重要性等を実感することが大切です。

自己指導能力を獲得するためにも

まずは教職員で話し合うことが大切

学校の教育目標や目指す児童生徒像に「主体的に」や「すすんで取り組む」が多く取り上げられている理由や、具体的にどんな姿を目指すのか、担任、教科、それぞれの立場で考え方を交流してみませんか？（コラムにつづく）

POINT

社会の変化に伴い、子ども達が身につける力も変わっている
「自己指導能力」は、自他の主体性の尊重で獲得できる